

総合人間科学系 全学教育センター

良い学びとは？ —自ら考える場をデザインする

「考えるゼミ」という教養ゼミナールを開講しています。この「考えるゼミ」では、ゼミ生自らが“考えることをする”場を実践的につくっています。3歳～6歳の子どもたちが哲学する場をつくったり（「ちびてつ」）、「学校とはちょっと違う学び」というテーマの下、小学校で学びをデザインしたり（「学校をつくる」）、「良い学びってどんなの？」「学ぶってそもそもなんだらう？」「教えるってなに？」など正解はないが問いの多い“教育”について対話する場（Edcampという世界各地で開催されているエデュケーションプログラム）をつくってきました。

言語教育部門



有路 憲一 准教授

上智大学外国語学部英語学科卒業、上智大学大学院外国語学研究科修士課程修了（言語学修士）。カナダ McGill University に留学。帰国後、信州大学特任講師を経て、2009年より信州大学全学教育機構准教授。現職に至る。

研究から広がる未来

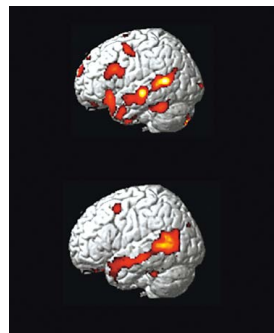
私は、認知神経科学（神経言語学・神経教育学）や言語心理学という複数の領域（脳科学と言語学 / 言語学と心理学など）に跨る研究をしています。一領域で得られた知見を、他の領域で応用できる可能性を模索しています。例えば、言語習得の熟達の鍵を言語熟達者の脳特徴をfMRI等で観察したり言語心理学の実証実験により探り、そこで得られた事を言語教育の実践に応用することで、教育効果をより確かなものにできるのではと考えています。

卒業後の未来像

「知る」ことはとても簡単なことですが、その一方で「わかる」ということは容易なことではありません。しかし、苦勞せず「知った」だけのことはすぐに消え、一度「わかった」ことは消えません。「知っている」だけのことは潔く捨て、「わかる」ことのみを大切にしていってほしいです。



考えるゼミ 2017



言語熟達者・非熟達者の脳画像



ちびてつ
Philosophy for Children